

ナチュラル

N A T U R A L

2003.6

第1号

発行/長野県知事登録事業者団体 長野県環境測定分析協会 広報部会



写真撮影/日本野鳥の会長野支部 三浦 収

ライチヨウをとりまく山の環境はいま

日本のライチヨウは羽の色が替わるライチヨウとしては世界最南端で生活しています。また、分布域は北アルプス、南アルプスなどの中部山岳地帯の高山に限られ、冬を迎えても里に移動することなく厳しい高山で越冬をするのです。現在その数は約三千羽と聞かれています。

このライチヨウの本格的な研究は四十数年前に始まったばかりで、氷河期を生き抜いてきた生物の特性を解明するにはまだ時間が必要でしょう。ただし、今までの調査研究の中からいくつかの課題も生じています。人間とライチヨウの関係で生じている問題点としては、一生を高山で生活するためウイルスや細菌に弱いライチヨウが登山者や観光客の残したゴミやベットの持ち込みなどによる汚染が考えられます。また産卵から抱卵という繁殖にとって大切な時期にスキーやボードをする行為、雑連れの親子にカメラを向けてシャッターチャンス求めて追いかけるなどがライチヨウを脅かす要因となっているのです。

もっと深刻な問題も近い将来やってくることも考えられます。地球の温暖化がライチヨウに及ぼす影響です。動物の分布を決定づけるものはいくつもあり、その一つとしてエサの確保があります。草食動物のライチヨウは高山の植生と深い結びつきを持っています。温暖化が進み高山性の植物に影響があった場合、ライチヨウの生活環境がどのようになるのか心配です。高山という日常生活とはあまり関係のない世界に、私たちの生活が関わっていることをたくさんの人に知ってもらい、これから先も人間とライチヨウがずっと良い関係で共生していくことを願っています。

広報誌「ナチュラル」創刊にあたって

長野県環境測定分析協会
会長 梅垣良男

当協会の水年の願望であった広報誌「ナチュラル」がこの度創刊の運びとなり、偶々昭和53年5月当協会が創立され今年が25周年の節目を迎える年と重なり、意義ある事業として二重の喜びであります。広報部会の皆様へ深く感謝を申し上げる次第であります。

この機会に、私達環境計量証明事業機関の原点である「環境計量に関する技術の向上と、適正な環境計量を実施し、もって生活環境の保全と改善に資する」を再認識しなければならぬと思います。そしてこの広報誌が、会員相互のコミュニケーションの役割と、互の情報源として広く愛読されることを願うものであります。更には読む人に心ぎを与えてくれる広報誌であって欲しいと強く望む次第であります。

す。今後、会員の皆さんに寄稿、ご趣味の発表等々をお願いすることと存じますがその際は是非ともご協力下さいませ。この季節に私達の住む信濃路の美しい野山を見るにつけ、この広い地球のみずみずしい大自然の維持と保全の責任の一端を私達の手中にゆだねられておられると思う時、身の引き締まる思いがいたします。過去の人間の歴史は余りにも身勝手な歩みであったと深く反省し、今、私達に与えられている生業に誇りを持ち続ける毎日でありたいと痛感する次第です。「ナチュラル」の発行を機に、当協会がますます充実し、発展することを心から念じ、会員及びご関係各位の変わらぬご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

長野県計量検定所
所長 橋詰義達

昭和50年に改正計量法が施行されて環境計量証明事業の登録制度がスタートしましたが、これに呼応して早々に賑々の声をあげられた長野県環境測定分析協会が、この度25周年を迎えられました。この間の協会の皆様の堅実な取り組みに改めて敬意を表するとともに、衷心より御喜び申し上げます。また平素の県計量行政に対する御協力に併せて御礼申し上げます。

本年は、明治36年に東京と大阪に中央度量衡器検定所(現在の産業技術総合研究所)が設置され、我が国の近代計量標準の組織的な普及が開始されてから100周年を迎える記念すべき年でもあります。昨今の経済情勢は、社会構造の転換期にあつて厳しい状況が長期にわたって続いておりますが、世界的な環境意識

長野県環境測定分析協会25周年を迎えられて

の高まりの中で、循環型社会・経済システムの構築が早急に求められており、環境計量の分野では、ダイオキシンなどの極微量な濃度をより正確に計量するために、平成13年に計量法も一部改正がなされました。

このように協会の皆様の社会的使命は、従来にも増して重くなっておりますので、25周年を契機として、今後も一層会員企業が相互に研鑽し、環境計量技術のレベルアップに努められ、誇れる信州の環境の保全に大きく貢献されますことを期待しております。

結びに、計量行政の推進に対し、協会の皆様の一層の御協力をお願い申し上げます。並びに会員企業のますますの御発展と会員の皆様の御健康をお祈り申し上げます。



平成14年度事業報告

日環協関東支部 環境セミナー 軽井沢で開催

社団法人日本環境測定協会関東支部主催による第14回環境セミナーin軽井沢が、平成14年10月8日(火)～9日(水)の日程で紅葉の美しい軽井沢プリンスホテル西館を会場として開催された。

14回を数えた今大会の担当は、長野・新潟・山梨各県が当番となり、特に長野県環境測定分析協会は、開催地というところで、早くから実行委員長をはじめとして準備をしてきた。

第1日目の10月8日は、梅垣長野県環境測定分析協会長の開会宣言で幕を開け、笠井関東支部長の歓迎あいさつの後、環境省環境管理局水環境部土壌環境課課長由田秀人氏による、「土壌汚染対策法について」と題して特別講演が行われ、土壌汚染対策法に基づく指定調査機関の指定条件、指定の基準について概要の説明があった。

型社会をめざして「文明の破局を避ける大改革」と題して講演がおこなわれた。

改革を迫る要因として、少子高齢化のため労働力不安、介護不安、若者の負担増等が挙げられる。又人口の急増のため食料不足、エネルギー不足、資源枯渇などを発生させ生存環境劣化してきている。そこで、成長拡大経済から循環型経済へ、変換しなければならぬ。

価値観、ライフスタイルの変革が必須となり、環境を汚染しないことを優先する新しい豊かさの確立をめざす。

循環型社会の形成は、官、学、産、民、の壮大な共同作業であり、自然と調和した生き方が求められる。

日本は、すでに豊かな国。これ以上成長拡大を追わず「小さくても尊敬される国へ」現在の地球が抱えている問題について教えて頂いた。

又別室において最新分析機器及びカタログ展示が行われ多数の参加者で、にぎわった。



懇親会は、佐藤軽井沢町長の挨拶ののち、小諸馬子唄、草笛の演奏と続き和やかな雰囲気となり同じ仕事を仲間として、親交を深めた。

第2日目は、二つの会場に分かれて分析事例発表を行った。両会場で合わせて二十グ

ループによる発表があった。長野県環境測定分析協会所属事業所からは株コーエキさんの中島康光さんによる「宮川水系における窒素挙動調査」の発表があった。

諏訪湖に流入する宮川水系の河川水、土壌、地下水の硝酸性窒素を調べ水田や畑などの耕作地帯と濃度の相関について考察していた。

又長野県環境測定分析協会の発表は、信濃川水系24時間一斉調査結果についてであった。

ご承知のように化学的酸素要求量、硝酸態窒素、リン酸態リン、pH濃度、の4項目を2時間おきに13回75地点測定したものである。

すべてのグループが貴重な体験及び実験のデータを発表して頂き多くの点で参考になった。

次回セミナーは、神奈川県環境計量協議会さんが、箱根で開催する計画とのことである。



箱根での再会を祈念して大成功のうちに散会した。



セミナー開催に際して作成された要覧

平成14年度事業報告

技術部会研修会開催

去る3月14日、第5回技術研修会として株式会社環境管理センター環境基礎研究所・分析センターの施設見学及び講義が行われた。

一、技術部会の構成

技術部会は、会則では「環境計量の技術の調査研究及び講習会の開催に関すること。」を推進するため、必要事項を担当することになっている。

平成13年度通常総会において環境測定業界の生命線である測定精度の向上を図るため、会員事業場各々から技術部会員として技術責任者（環境計量士又は計量責任者）をご推薦いただき、技術部会の活動を一段と活発化させ技術向上を図ることが決定された。



これにより、部会員は各会員事業場から推薦いただいた技術責任者と部会の運営を司る会長が指名した正副部長及び執行委員6名（現在1名欠員）で構成されている。

二、平成14年度活動状況

①技術部会の開催

5月、8月、1月の3回

②技術研修会の開催

平成15年3月14日

③精度管理センター見学

平成14年9月10日

④「2002年信濃川水系24時間水質一斉調査」の協力

平成14年8月9日

信濃川水系24時間一斉水質調査実行委員会が主催する水質調査に参加

バックテスト用試薬を用いた簡易測定

参加会員数 8機関

⑤「天竜川水系水質調査」の協力

動長野県テクノ財団が主催する調査のうち源流域の水質調査（公定法）に協力

参加会員数 8機関

三、技術研修会

当協会の事業活動の一環として技術研修会を開催しているが、昨年より環境測定業界の生命線である測定精度の向上を図るための研修会を開催している。

昨年は、2月28日講師に頼オオスミ 顧問 田中弘一先生を迎え、「分析精度管理—分析の信頼性を確保するため—」をテーマに講演会を開催した。

今年、東京都八王子市の



「よみがえれ諏訪湖ふれあい」の展示、パンフレット、ポケットティッシュ、を配布しPRと共に環境分析等の質問などに対応しました。

研究発表、スタンブラリー、フリーマーケット、下水施設見学などがあり、家族づれ、小中学、高校、大学生などの参加、入場者が多く1日で約3000人と盛況でした。当コマにも本年はポケットティッシュ、が有りましたので多くの方が立ち寄って頂きました。

展示、パンフレット、ポケットティッシュ、を配布しPRと共に環境分析等の質問などに対応しました。

研究発表、スタンブラリー、フリーマーケット、下水施設見学などがあり、家族づれ、小中学、高校、大学生などの参加、入場者が多く1日で約3000人と盛況でした。当コマにも本年はポケットティッシュ、が有りましたので多くの方が立ち寄って頂きました。

展示、パンフレット、ポケットティッシュ、を配布しPRと共に環境分析等の質問などに対応しました。

研究発表、スタンブラリー、フリーマーケット、下水施設見学などがあり、家族づれ、小中学、高校、大学生などの参加、入場者が多く1日で約3000人と盛況でした。当コマにも本年はポケットティッシュ、が有りましたので多くの方が立ち寄って頂きました。

展示、パンフレット、ポケットティッシュ、を配布しPRと共に環境分析等の質問などに対応しました。

研究発表、スタンブラリー、フリーマーケット、下水施設見学などがあり、家族づれ、小中学、高校、大学生などの参加、入場者が多く1日で約3000人と盛況でした。当コマにも本年はポケットティッシュ、が有りましたので多くの方が立ち寄って頂きました。

展示、パンフレット、ポケットティッシュ、を配布しPRと共に環境分析等の質問などに対応しました。

研究発表、スタンブラリー、フリーマーケット、下水施設見学などがあり、家族づれ、小中学、高校、大学生などの参加、入場者が多く1日で約3000人と盛況でした。当コマにも本年はポケットティッシュ、が有りましたので多くの方が立ち寄って頂きました。

展示、パンフレット、ポケットティッシュ、を配布しPRと共に環境分析等の質問などに対応しました。

研究発表、スタンブラリー、フリーマーケット、下水施設見学などがあり、家族づれ、小中学、高校、大学生などの参加、入場者が多く1日で約3000人と盛況でした。当コマにも本年はポケットティッシュ、が有りましたので多くの方が立ち寄って頂きました。

展示、パンフレット、ポケットティッシュ、を配布しPRと共に環境分析等の質問などに対応しました。

研究発表、スタンブラリー、フリーマーケット、下水施設見学などがあり、家族づれ、小中学、高校、大学生などの参加、入場者が多く1日で約3000人と盛況でした。当コマにも本年はポケットティッシュ、が有りましたので多くの方が立ち寄って頂きました。

展示、パンフレット、ポケットティッシュ、を配布しPRと共に環境分析等の質問などに対応しました。

研究発表、スタンブラリー、フリーマーケット、下水施設見学などがあり、家族づれ、小中学、高校、大学生などの参加、入場者が多く1日で約3000人と盛況でした。当コマにも本年はポケットティッシュ、が有りましたので多くの方が立ち寄って頂きました。

展示、パンフレット、ポケットティッシュ、を配布しPRと共に環境分析等の質問などに対応しました。

研究発表、スタンブラリー、フリーマーケット、下水施設見学などがあり、家族づれ、小中学、高校、大学生などの参加、入場者が多く1日で約3000人と盛況でした。当コマにも本年はポケットティッシュ、が有りましたので多くの方が立ち寄って頂きました。

展示、パンフレット、ポケットティッシュ、を配布しPRと共に環境分析等の質問などに対応しました。

第2回諏訪湖によりそう

環境展に参加出展 広報部会

主催

「よみがえれ諏訪湖ふれあいまつり2002」実行委員会

長野県経営者協会諏訪支部

日時

平成14年9月8日（日曜日）

9時から15時まで

場所

諏訪市諏訪湖畔クリーンレイク諏訪

主 催

「よみがえれ諏訪湖ふれあいまつり2002」は第2回諏訪湖によりそう環境展とともに

・第23回クリーンレイク諏訪ふれあいまつり

・第14回諏訪湖クリーンフェスティバル

・諏訪湖ウォーク&水上エコ教室

などが開催されています。

当協会は昨年に続き

参加部会員2名がパネル

若手が占め、有意義な研修会を開催することができた。

技術部会では、今後も会員の要望に添った、こうした研修会・講演会・見学会を開催し、会員の技術レベル向上の一助としたいと考えている。

よみがえれ諏訪湖ふれあい Green

展示、パンフレット、ポケットティッシュ、を配布しPRと共に環境分析等の質問などに対応しました。

研究発表、スタンブラリー、フリーマーケット、下水施設見学などがあり、家族づれ、小中学、高校、大学生などの参加、入場者が多く1日で約3000人と盛況でした。当コマにも本年はポケットティッシュ、が有りましたので多くの方が立ち寄って頂きました。

展示、パンフレット、ポケットティッシュ、を配布しPRと共に環境分析等の質問などに対応しました。



株式会社環境管理センターを見学して

株信濃公害研究所 古幡 徳明

3月14日に長野県環境測定分析協会第5回技術研修会として、株環境管理センター環境基礎研究所・分析センターの施設見学と精度管理についての講義が行われました。

現地に到着して、まずは建物の大きさに少々驚いてしまいました。施設内は、分析の種類や工程ごとに細かく部屋分けされていて、検体の汚染、室外への漏洩、分析者の曝露を防ぐために排気を含めた空調設備が充実していることや、多くの分析室で入室規制も厳しく行われていることなどいろいろと勉強になりました。しかし、HR/GC/MSや、

LC-MSのある部屋は、入室規制により見学不可であったのが残念です。前処理等では、様々な工夫がされており、可能なものは当社でも取り入れていきたいと思えます。

講義では、内部精度管理の取り組みや社員教育の手法、特に技術者認定制度など大変参考になりました。嗅覚測定法の精度管理の手法についても興味深い内容でした。移動のバスは納車2週間目の新車で、昼食もおいしく充実した1日となり、環境管理センター並びに執行委員のみなさんに感謝しております。



第5回技術研修会報告

ユートピア産業株

岡田 隆章

長野県環境測定分析協会は、第5回技術研修会として、3月14日(金)に、株環境管理センター環境基礎研究所・分析センター(東京都八王子市)を、目的地として、バスツアーによる、見学研修会を開催しました。

県下各分析センターから参加した、総勢23名のうち、6名は技術部会のメンバーですが、他の17名は、各分析センターの将来を担う若手で、大いに期待できる一日になりました。高速道路の効果は大きく、1時には、環境管理センター環境基礎研究所の正面玄関に到着しました。民間の分析センターがこんなに大きいのか、というのが、第一印象でした。そして、立派なホールに通され、ご挨拶をいただいた、取締役分析センター長のかたが、女性だったことで、二度びっくり、しかも、尹(ユン)さんと言う外国名の方でした。

研修会は、前半を施設の見学、後半は、精度管理に関する、講演三題、となっていました。施設の見学は四つの班にわかれて、それぞれ解説の

方に引率していただきました。

施設の見学も大変参考になることが多くありました。

1、ダイオキシンの分析機器が見学コースに入っていて、じかに見ることが出来たこと。

前処理が終わって、分析にかける直前の段階では、もう汚染の心配はほとんど無いとの事でした。ピーカーやフラスコを使う分析室のほとんどが、見学者の立入禁止で、厳重なドアごしや、分析室の窓越しに見学したのと、対照的でした。

2、パーセントオクターのPCBを分析する、専用の部屋があったこと。分析による、環境汚染の防止のためです。

3、環境ホルモンの分析室は、活性炭などで浄化した空気を、実験室へ送り込み、また排気しているとの事です。環境からの汚染を排除するためです。

この、有意義な見学の後、休憩をはさんで、講演会が行われました。講演のテーマは、

「精度管理」ですが、①国際的な精度管理 ②環境管理センターでの、精度管理 ③精度管理の実例(嗅覚測定)の三つでした。



そして、この三つのテーマでの講演の講師を、すべて、環境管理センターの人が担当していました。特に、②の自社の精度管理者としての取り組みは、これからの、仕事として、大いに参考になりました。時間はたちまち過ぎ、4時になってしまいました。熱心におもてなしいただいた、株環境管理センターの皆様は心からのお礼を述べ、帰りのバスに乗り込みました。

最後に、この研修会を実施するために、お骨折りにいただいた皆様は心から感謝しつつ、この報告を終わりにしたいと思います。

はじめに

古来より日本人は温泉を治療、療養、余暇等に利用している。近年に至っては経済的に豊かになり、国民の余暇利用という面から、温泉は豊かさやゆとりを実感できる場として広く浸透している。また、家庭においても快適な生活を求めるために、循環水を利用した24時間風呂が普及している。

しかし、近年、浴槽中にレジオネラ菌が生息していることが判明し、これにより入浴者がレジオネラ肺炎を患うことが危惧され、健康で豊かな生活を求める人々に対して不安を与えている。今後、旅館業、公衆浴場及び家庭用循環風呂等の循環式浴槽のレジオネラ症を防止し、安心して

利用できるよう衛生管理に十分配慮するよう努めなければならない。

レジオネラ症とは

1976年に米国ペンシルバニア州で開催された在郷軍人会ペンシルバニア支部総会に参加した221名が、原因不明の肺炎を発病し、そのうち34名が死亡した。この肺炎は、米国疾病予防センター(CDC)の調査により独立疾患と認められ、在郷軍人会(Legion)にちなんで、在郷軍人病(Legionnaires' disease)とよばれ、その後の研究の結果、新しい病原菌が発見され、Legionella pneumophilaと命名された。その後、レジオネラ症には、肺炎型だけでなくインフルエンザのような熱性疾



患型があることが、1965年のミシガン州ポンティアック衛生局庁舎内の集団発生にさかのぼって判明し、この病型をポンティアック熱と呼ぶようになる。自然治癒するポンティアック熱(非肺炎型)に対して、レジオネラ肺炎(肺炎型)は、潜伏期間は通常1週間前後で、成人呼吸窮迫症候群などの多臓器障害を引き起こし多彩な臨床病状を示し、劇症例では発病後週日で死亡することもある。これら同一



電子顕微鏡で見たレジオネラ菌

菌種がなぜ異なった病態をとりのかは、未だ解明されていない。

レジオネラ菌とは

レジオネラ菌は、自然界の土壌や淡水中の自然生活菌で環境中に広く分布し

「レジオネラ菌」に関するさまざまな報道や話題がクローズアップされ、その名称は広く知られるおよぼすかなど、正確に把握ここで初の本紙特集記事として、にした。もちろんこの紙面だけきないが「レジオネラ菌」の基

ている。属Legionellaは科Legionellaceaeの唯一の属である。この属には現在47菌種が命名されている。基準種は、最初に発見、命名されたLegionella pneumophilaである。大腸菌と同じグラム陰性桿菌で、大腸菌よりも少し細長く幅0.3〜0.9μm、長さ2〜20μmまたはそれ以上であり、菌体の一端に1本、ときには2本の鞭毛がある。自然界や人工水環境中では、アメーバその他の細菌捕食原動物の細胞内に取り込まれ、消化されずに増殖して宿主細胞を破壊して外界に放出され、再び新しい宿主に取り込まれて増殖する。レジオネラ菌の発育可能温度域は25℃〜43℃で人工培地上での発育至、

特集



レジオネラ菌と環境対策の実際



一時ほどではないにしろ、昨今さまざまな報道や話題がクローズアップされるところとなった。しかしそしたちに実際どんな健康的被害する人は少ないと思われる。そのあたりを追求してみることがすべてをお伝えすることは基礎知識を得る一助としてお読み

場として重要な役割をしている。そこで、設備の内部に生物膜の定着を防止し、定着した場合にも排除できる構造が必要である。レジオネラ症の発症を防止するためには、基準・要領の遵守はいうまでもなく、日々の一層の衛生管理に努める必要がある。

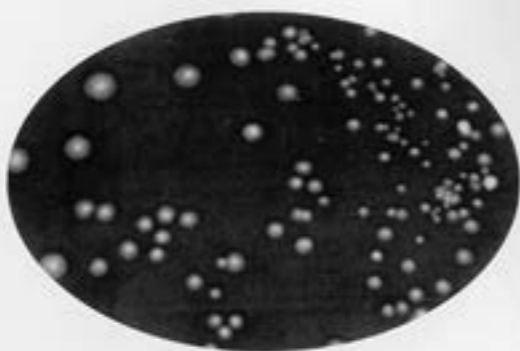
これまで、浴槽を中心に書いてきましたが、噴水等の水景施設、ビル屋上の冷却塔、加湿器、給水・給湯設備、蓄熱槽、園芸用肥料等から、感染する機会は増加しているものも考える。自分自身を守る上でも、健康な体を創ることが一番ではないだろうか。

感染経路

適温度は36℃前後である。また、実験室での発育至適pHは6.9±0.1と狭いが、人工の温水系には幅広く存在しpHに大きく影響されない。

人は主としてレジオネラ菌を含むエアロゾルや土壌等を吸入することにより呼吸器感染症を起こす。人から人への伝染は認められていないが、感染後のレジオネラ菌は血液中に入ると増殖することが知られており、創傷感染や経口感染の可能性が示唆される。レジオネラ菌に暴露され

ても発病率は低く、健康者では発症しにくいとされているが、免疫力の低い新生児、40歳以上の特に男性、代謝異常や悪性腫瘍のある人はかかり



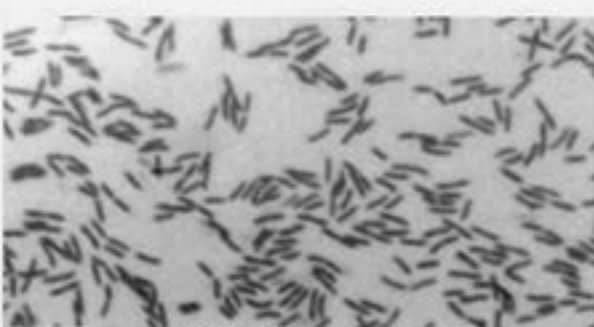
やすいと考えられるが、感染・発病の要因を説明することや感染菌数を数値で表すことは現在のところ不可能である。一旦レジオネラ菌に感染し発病すれば、不幸な場合には劇症肺炎を起こし週日で死亡することを考えると、発病の因子、即ちレジオネラ菌

レジオネラ症防止対策

をできるだけ減少させることが重要である。「公衆用浴場等における水質基準等に関する指針」の中で現行の検査方法で不検出という基準が設定される。

公衆浴場及び旅館業におけるレジオネラ症発生防止対策については「公衆浴場における衛生等管理要領について」(平成12年12月15日生衛発第1811号厚生省生活衛生局長通知)に盛り込まれ、更に、「公衆用浴場法第3条第2項並びに旅館業法第4条第2項及び同法施行令第1条に基づき条例等にレジオネラ症発生防止対策を追加する際の指針について」(平成14年10月29日健発第1029004号健康

局長通知)、本15年2月14日健発第0214004号厚生労働省健康局長通知「公衆浴場における衛生等管理要領等の改正について」の改正を行なっている。レジオネラ症の発症を防止するには、これらの基準・要領の遵守が重要である。レジオネラ菌は70℃の湯に直接接触すれば5秒以内に、60℃の湯または0.4ppmの遊離残留塩素に接触すれば15分以内に死滅するが、汚染された環境の洗浄、消毒が不十分であると、レジオネラ菌が回復することがある。これは、浴槽や配管内等の生物膜中に存在するアメーバ等の原動物の生息により、アメーバ内等のレジオネラ菌の一部が消毒等に耐えて生残して、増殖すると考えられる。このことから、アメーバが増殖の



顕微鏡1000倍で見たレジオネラ菌

第1回長環協

ゴルフコンペ開催

総務部会

長年話題に上がって、計画
例れになっていました。当協会
待望のゴルフコンペが前会
長堀内茂男さんのホームグ
ランドであるグランステージ
C・C丸子コースで左記のよ
うに開催され、栄ある初代チャ
ンピオンに降旗敦海さん(長
野県公害防止管理協会事務局
長)がなり、協会長カップ等
を手中にしました。



開催日 平成14年11月9日(土曜日)
会場 グランステージC・C丸子
コース
時間 10時35分スタート

競技方法 18ホール
(ふじコース、みまきコー
ス)、新ペリア

費用 コンペ会費3,000円
プレー・飲食費は各自負担

参加募集の結果、3組12名
のエントリーで協会長カップ
を手中に収めべく鏝を削り合
いました。
当日は11月の初めとしては
珍しい寒風、小雪まじりで時々
快晴という中、又スタートが
遅かった事によるナイタープ
レーになり各選手鼻水を縮こ
まった手でこすりながら精一
杯のラウンド、初回らしく記
憶にのこる競技会でした。

上位三者成績結果

順位	氏名・所属	ふじ	みまき	計	HC	NET	備考
優勝	降旗敦海(公害防止管理協会)	41	49	90	15.6	74.4	
準優勝	深町浩一(東信公害研究所)	42	41	83	8.4	74.6	BG
三位	杉崎勝明(労・基・連合会)	53	53	106	30.0	76.0	



次回も
より多数の参加を
お待ちしております。

私とゴルフ…「お風呂に入るとき洗いますか？」

(社)長野県公害防止管理協会 降旗敦海

30数年前、私は関西のある労基局で安全衛生に係る仕事をしていました。経済成長期でもあり労働災害が多発していました。それはゴルフ場も例外ではありませんでした。

逸れたボールが顔面を直撃し眼球が飛び出した！カートを支えながらエスカレータを登っていたキャディが降りるとき、ゴムベルトに靴の先を挟まれ、足の指をちよん切られてしまった！等々キャディ災害を中心に悲惨な事故が後を絶ちません。勿論、プレーヤーの事故はこれを更に上回っていました。

早速、事故報告書から災害事例集を作り、県内のゴルフ場に集まって買いました。その課程で、ネットの設置や安全帽の着用、カート操作等キャディ教育の徹底をお願いしました。私のゴルフ歴は、これより2年ほど前に始まっていましたが、事実上は、このキャディ災害対策とともに始まりました。そして、「キャディが自らの安全に配慮することによって、自身の災害はもとより、プレーヤーの安全も確保される。そしてキャディの言葉に素直に従えるプレーヤーのマナーが重要」と確信しました。それ以来、安全確認とマナー最優先が私のプレースタイルになりました。

年に一回は同伴するシングルプレーヤーのある会社の社長さんから聞いた話です。仕事柄、会社のトップや著名人とラウンドする機会が多いと言います。「風呂に入る時、服を脱いでいきなり湯船にドボンと没かる人がいます。名前を聞いた降旗さんも直ぐ分かる人です。腕はシングルでもマナーはビギナー以下です。」第1回コンペは、若林さん、斉藤さんと回らせていただきました。お風呂まではお付き合いできませんでしたが、お二人のマナーは最高でした。ペリア方式のハンデ戦でしたから運任せです。優勝はお二人のマナーと運を買ってのものだと思っています。

このコンペが末永く続くことを祈っています。幹事さんお世話になりました。



会長より優勝カップ等を受ける喜びの降旗さん

私の趣味自慢

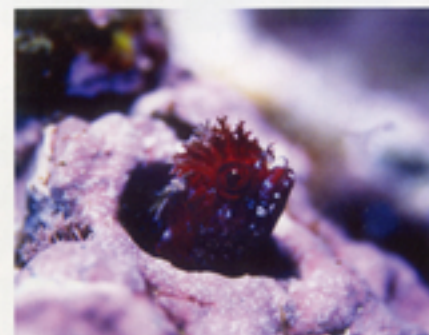
株式会社自然農法センター

酒井今朝重さん

私が海洋の素晴らしさに魅せられるきっかけとなったのは、海水浴でマスクをしての素潜りが始まりでした。

砂浜の海岸でなく岩場の海中での眺めは、アルプスの山頂からの眺望にも見劣りしない素晴らしい景観で、海中での地形と多様な生物が織り成す様子の体感、地上に生活している私にとって遭遇した未知の世界の体験でした。カキやサザエを採っている、呼吸の海水での活動に制限があり、スキューバダイビングに慣れるようになり、海中は大自然と異なり自分の呼吸音以外の音は、まったく感じられず沈黙と絶望の世界です。上を見ても下を見ても、回りは360度無限のマリンブルーで、開放感と圧迫感が混在した無重力空間に居るような気持ちになります。そして孤独感さえも感じられる紺碧の世界からは、呼吸の一筋の白い泡だけが、天空へ立ち上りて行くだけです。

海中では時として、色々な景観と体感を私に味わせてくれます。紺碧一色の無の世界が一変して回り全



佐渡の海で出会った【トウシマコケギンボ】(筆者撮影)

てが回遊魚のブリザードとなつたかと思えば、チョウチョウウオやツノダシが乱舞するお花畑になり、時として黒い爆撃機を思わせるサメの大群が、ゆっくりと通り過ぎていくこともあります。

通常ダイバーはサメやエイの群れを見ると身が硬み後ずさりしてしましますが、カメラダイバーは皆前の方に身を乗り出して行き、ガイドが後ろから引張っているのを見かけます。シャッターチャンスを狙う従軍カメラマンの様に危険に疎くなる様です。

ダイビングを始めて15年、カキやサザエ・アワビが採りたくて始めたダイビングですが、レジャーダイバーは魚介類の捕獲採取が禁止されている為、水中ではもっぱら写真を撮って帰ります。

新規会員ご紹介

財団法人自然農法国際研究開発センター農業試験場

当センター(理事長 藤田節典、静岡県熱海市、全国9地区に普及所を設置)は、自然の生態系のもつ機能を活用した農業技術を研究・普及し、自然環境の保全、日本農業の安定向上、健康で豊かな食生活の達成を目的に、昭和60年に農林水産省の認可団体として設立されました。

そして平成2年には、農業や化学肥料に頼らない自然農法の研究開発を進めるために、農業試験場(場長 川島東洋一、職員数15名)を東筑摩郡波田町に開設しました。水稲、畑作を中心に、自然農法向け品種の開発、育土(土づくり)技術の研究開発、雑草および病害虫対策技術の開発、農作物の品質特性の研究などを行っています。また、自然農法後継者および技術者の育成を願ひ、研修生を受け入れていきます。

平成13年より、自然農法実地農家の土壌などの分析依頼にこたえるため、計量証明事業(環境第89号)を始めました。事業を推進するために、

自然農法栽培にあった土壌診断法の研究開発を行っています。

また当センターは、農林水産省より有機JAS認定機関に指定され、有機農産物の認証事業も行っています。見学会なども開催していますので、農産物の生産から消費まで、関心のある方は気軽にご連絡ください。

〒390-1401
東筑摩郡波田町5632
TEL 0263-9276800



編集後記

長年の懸案でもあった協会誌「ナチュラル」を皆様にお届け出来ましたことは嬉しかった者として、会長を始めとした協会関係者、指導官庁関係者とのご理解とご協力の賜物として厚くお礼申しあげます。

この四半世紀、公害・環境問題が高度成長経済の副産物として様々な社会問題として表面化しその対応、対策・解決に少なからず協会員共々水質・大気質・騒音振動・悪臭などの分析・測定・調査を通じて一端を担ってまいりました。

14年度は低迷する経済状況の中、米英イラク攻撃を初め、緊急事態、等、業会でも改正計量法施行、土壤汚染防止法施行、レジオネラ菌、シツクハウス、未登録農薬、などの様に数々の事があり対応するには大変な年でしたが気が付くと年度末、と駆け足で過ぎていった感がありました。

情報化が進むにつれ何かと気ぜわしくストレスが堪りがちな昨今、一生命体として信州の自然に心を洗われながら心の平衡感覚が失われたい様、努めて行きたいと思えます。

本誌により会員・監督指導官庁・委託者の皆様と新たな承を結ばれます様、又、年々益々多くなりまします様心よりお願いいたします。年度始めのご多忙の中、原稿を頂戴しました皆様にお礼申しあげます。

発行 長野県環境測定分析協会

〒390-1401 波田町5632

TEL 0263-9276800

FAX 0263-9276800

編集 自然農法センター

〒390-1401 波田町5632

TEL 0263-9276800

FAX 0263-9276800

印刷 株式会社印刷センター

〒390-1401 波田町5632

TEL 0263-9276800

FAX 0263-9276800